

厚生労働省北海道労働局発表
平成28年11月21日

【担当】

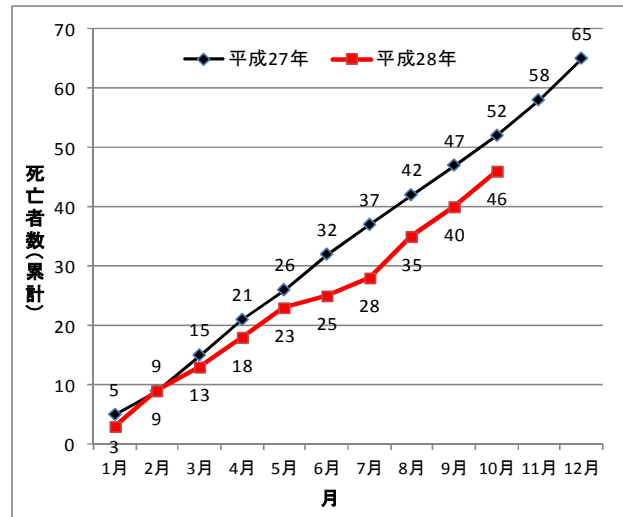
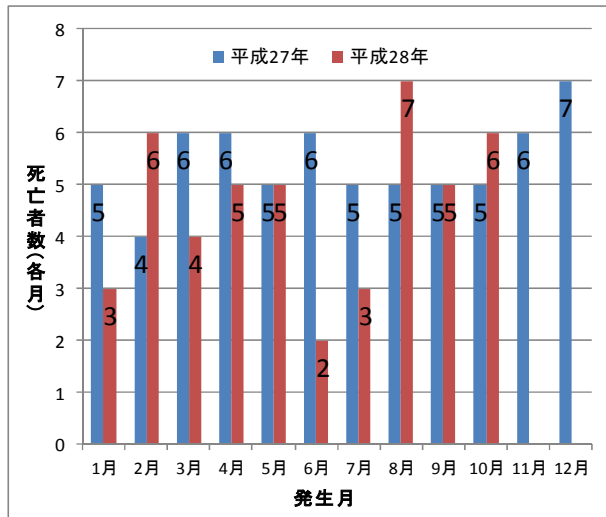
北海道労働局労働基準部安全課
課長 工藤 英司
安全専門官 渡邊 哲也
電話：011-709-2311（内3557）
FAX：011-756-0056

死亡労働災害は前年同期比6人減少 死傷労働災害は前年同期比1.3%減少

— 平成28年の北海道内の労働災害発生状況（平成28年10月末現在速報値） —

1 労働災害による死亡者数（1月～10月）

平成28年の道内の労働災害による死亡者数は、平成28年10月末現在速報値で46人と、前年と比べ6人の減少となっています。



（1）業種別の状況【資料1、2】

業種別に見ると、「建設業」が18人（全体の39.1%、前年同期比5人減）、
「陸上貨物運送事業」が7人（全体の15.2%、前年同期比1人増）、
「製造業」が5人（全体の10.9%、前年同期比1人増）、
「農業・畜産業」が5人（全体の10.9%、前年同期比4人増）、
「林業」が3人（全体の6.5%、前年同期比同数）となっています。

（2）事故の型別の状況【資料3】

災害を事故の型別で見ると、「交通事故（道路）」が12人（全体の26.1%）、
「墜落・転落」が11人（全体の23.9%）、
「激突され」が8人（全体の17.4%）、
「はさまれ・巻き込まれ」が5人（全体の10.9%）、
「崩壊・倒壊」が4人（全体の8.7%）、
「おぼれ」が3人（全体の6.5%）となっています。

2 労働災害による死傷者数（1月～10月）

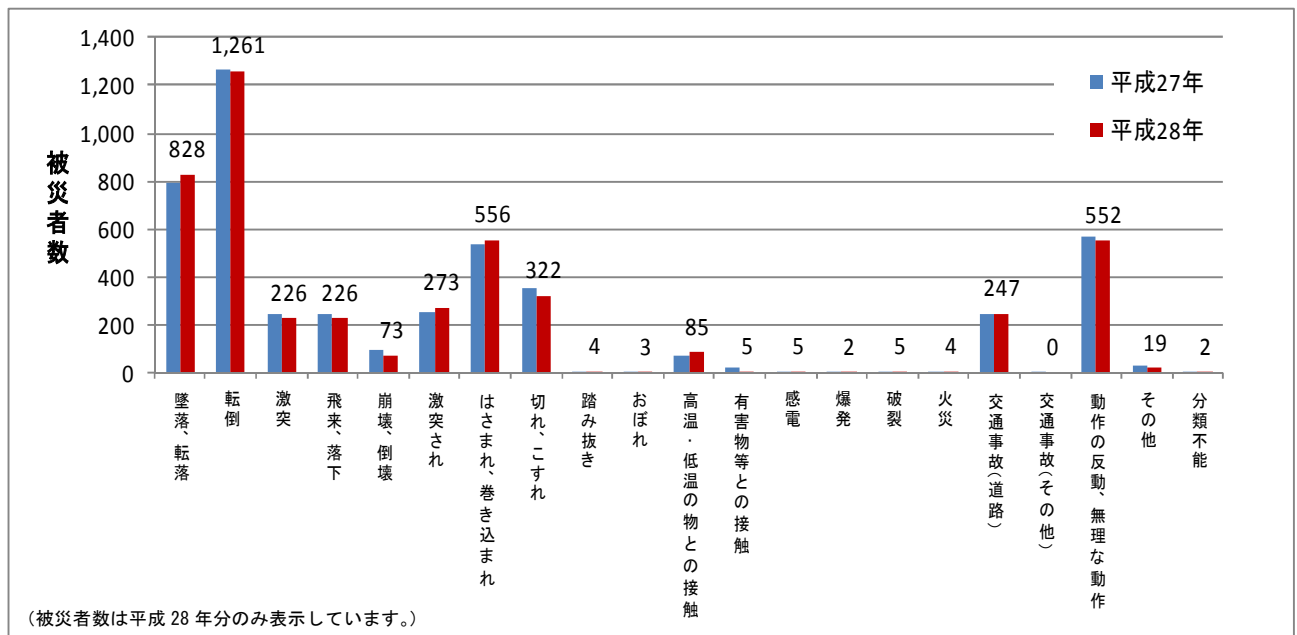
平成28年の道内の労働災害による休業4日以上死傷者数は、平成28年10月末現在速報値で4,698人と、前年同期比64人減（1.3%減）となっています。

（1）業種別の状況【資料4】

業種別に見ると、「製造業」が901人（全体の19.2%、前年同期比21人増）と最も多く、次いで「建設業」が658人（全体の14.0%、前年同期比71人減）、「商業」が649人（全体の13.8%、前年同期比15人減）、「陸上貨物運送事業」（道路貨物運送業及び陸上貨物取扱業）が550人（全体の11.7%、前年同期比2人減）の順となっています。

（2）事故の型別の状況【資料5】

災害を事故の型別で見ると、「転倒」が1,261人（全体の26.8%）と最も多く、次いで「墜落、転落」が828人（全体の17.6%）、「はさまれ、巻き込まれ」が556人（全体の11.8%）、「動作の反動、無理な動作」が552人（全体の11.7%）、「切れ、こすれ」が322人（全体の6.9%）、「激突され」が273人（全体の5.8%）、「交通事故（道路）」が247人（全体の5.3%）となっています。



3 北海道労働局の対応

（1）建設業では、建設工事追い込み期に当たる10月から12月に労働災害が多発する傾向にあることから、10月1日から12月31日を「建設工事追い込み期労働災害防止運動」として取組を展開しています。

（2）平成28年の北海道内における労働災害のうち、転倒による労働災害は全体の26.8%を占めており、また、例年、転倒災害の5割は12月から翌年3月までに発生していることから、昨年に引き続き12月から翌年3月を「北海道冬季災害ゼロてんとう防止運動」として取組を展開します。（別途、詳細をプレスリリースいたします。）

【添付資料】

- 1 平成28年における死亡災害発生状況[速報]
- 2 平成28年における死亡災害発生状況（その他の事業の内訳）
- 3 平成28年 業種別・事故の型別・起因物別死亡災害発生状況
- 4 業種別労働災害発生状況
- 5 平成28年 業種別・事故の型別・起因物別死傷災害発生状況
- 6 署別・業種別災害発生状況
- 7 死亡労働災害の概要（前月把握分）